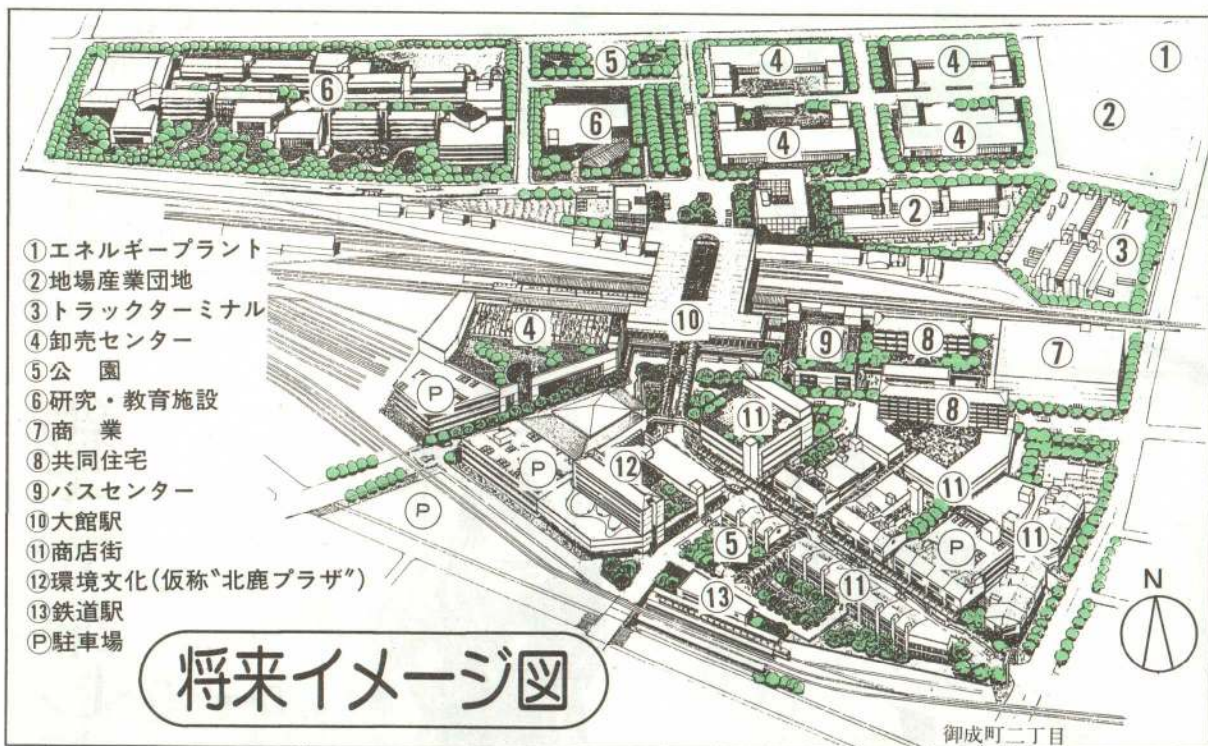


# 大館駅周辺地区 再開発の基本計画まとまる



御成町二丁目

大館駅周辺の再開発を目的に、昨年設置した「大館駅周辺地区市街地再開発事業基本計画調査委員会(委員長・渡部与四郎筑波大学教授)」では先ごろ基本計画をまとめ、四月二十三日発表しました。同委員会では、これまで大館市全体のまちづくりという観点から再開発の事業の方向、具体案をまとめてきましたが、今後この基本計画に沿って官民一体となり、事業化に向けて取り組んでいくこととなります。計画の主なものをお知らせします。

駅周辺地区の再開発の基本方針は、大館市の持つ潜在的な力、いわゆる地域産業、観光資源、伝統文化などの「地域おこし」が基礎となっています。

## 活力ある

### 地域産業の場(NVC)

地域に活力を生む基になるのは人々が働く場所として産業が盛んであることと、精神的な豊かさ、つまり文化活動の充実があげられます。そして、地域の活力には後継者たる若者が定住できるように、雇用の場の確保と、文化情報の得られる環境整備が大きなポイントとなっています。そこで、産業活動の振興のための拠点形成を図ることが、流通活動の活性化のために大きな役割を担ってきます。

## 魅力ある

### 市街地環境づくり

魅力あるまちづくりとして、文化活動を育てること、生活環境の向上の二つがあげられます。城下町として発展してきた本市には

数多くの文化遺産があります。これを掘り起こし、さらに新しい中央の、そして海外の文化の導入と合わせて新しい文化の創造、地域コミュニティの醸成を図りながら住民にとっても観光客にとっても魅力ある、誇ることのできるまちづくりを進めることが、若者の定住にも結びつくとしています。また、生活空間として、快適で利便性・防災性に富んだ環境となること、今回の再開発の基本的条件であるとしています。

それでは具体的に、大館駅前の再開発の基本計画をみていきたいと思えます。



▲大館駅前

## 市長の対話ノート

### 緑の羽根



No. 88

「また募金か」と嫌われるかもしれませんが、生命とか、自然という原点にたつて「緑」「森」「自然」を問い直して見る時ではないでしょうか。植物の緑、すなわち葉緑素は動物の生命の源です。葉緑素がなければ、光と水と炭酸ガスから炭水化物を合成することができないからです。それほど大切な緑を私たちは実感としてとらえているのでしょうか。

「緑の羽根」は国土緑化運動のシンボルです。この運動を通して改めてこのことを確認し合いたいものです。そればかりではありません。もし森を失ったらどうなるでしょうか。絶えることなく泉のごとく流れる川の水は森がつくっているのです。年間千六百ミリも降る雨、その時、森がなかったら私たちが毎日生活している住宅はどうなるでしょうか。おそろしいことです。他人ごとではありません。緑こそ私たち人間の生命であり、古里であることを声を大にして叫び続けなければなりません。

五月十日は秋田県植樹祭が当市の岩神で知事さんはじめ多くのお客さんを迎えて行われます。どうか多くの市民のご参加をお願いし、緑化思想の高場にご協力いただきたいものです。

## 山々が匂うわが郷土

山々の緑が匂うわが郷土

第35回秋田県植樹祭テーマ